

## <鶴川地域の図書館の動きと鶴川図書館大好き！の会の活動>

2017年度に「町田市公共施設再編計画」案が出され、その中で鶴川図書館が鶴川駅前図書館に集約という名目での閉館の方針が掲げられた。9月に存続を求める請願を市議会に提出、請願が全会一致で採択されたにもかかわらず、2018年策定の「町田市立図書館のあり方見直し方針」で鶴川図書館の集約の方針が掲げられた。

### 2019年度

- ・鶴川地域で鶴川図書館を大事に思い、存続を願う住民を中心に当会を立ち上げた。
- ・5月26日、鶴川団地バザー、7月27日28日の2日間鶴川団地夏祭りに参加。
- 11月16日（土）鶴川図書館応援まつりを会独自のイベントとして開催。古本市、鶴川図書館クイズ、おはなし会など、図書館、本、お話を大人も子供も楽しみつつ、鶴川図書館の現状を伝えたり、市長への要望書の署名を集めた。その後も署名活動を継続し、8200筆の署名を市長に2回にわたって届けた。
- ・12月、市長への存続を求める要望書の署名を再度市長に届けた。副市長、生涯学習部長同席のもとで手渡し、鶴川図書館の今後について、地域住民と図書館とで話し合いの場を持つよう約束を取り付けた。
- ・一方、図書館の再編計画に市民の声は受け入れられず、秋に策定された「効率的・効果的な図書館のアクションプラン」の中で計画はさらに具体的に。2022年度から鶴川駅前図書館に指定管理者制度導入、鶴川図書館を集約する計画が打ち出されたため、「アクションプラン」の再考を願う請願の署名を2月の教育委員会に提出。しかし、請願はなんら審議せず拒否、アクションプランはそのまま策定されてしまった。続いて、3月議会で請願を提出したが継続審査となり、6月議会を経て、9月議会で、拒否されて終わった。

### 2020年度

- ・図書館側との意見交換の場を数回にわたって持った。図書館側は、市民協働による図書館運営も可能性として示唆したので、会としても、その事例として八王子市立図書館を見学・調査。
- ・10月、11月には、会の活動として、「iPadで絵本づくりワークショップ」、講演会「前川喜平さんと考える生涯学習と図書館」（共催）、「第2回鶴川図書館応援まつり」、「みんなで楽しく、読み聞かせカフェ」などのイベントを開催し、地域の方と一緒に考える機会とした。
- ・2021年2月と3月に市主催の「鶴川図書館再編後の姿を考えるワークショップ」にも参加。

2021年度4月に「疎開した40万冊の図書」の映画上映会&金高謙二監督講演会を鶴川市民センターのホールで開催。90人の方々と共に、いつの時代にも変わらない図書・図書館の大切さについて考え合った。

- ・4月末から8月まで数回、当会主催で「公立図書館を市民参画によって支えるためのワークショップ」をオンラインで開催。市の直営で図書館を運営、市民は、図書館がより良くなるためにいろいろな提案、協力をすることが真の市民協働のあり方ではないかとの結論に至った。
- 経費を節減しつつ市の直営を維持する方法として、会計年度任用職員（月16日勤務）を中心として運営している荒川区立図書館を調査。荒川区のような運営方法を次善の策として図書館側に提案することにした。
- ・市民協働のあり方としては、皆が図書館をより身近に感じ、もっと利用したいと思えるようないろいろなアイデアを募り、実践することで図書館に協力していきたいという考えを図書館側に届けることにした。
- ・図書館側と面談を行った：10月5日に、会の代表数名が図書館館長及び担当職員と初めて面談、今後の鶴川図書館の運営と市民協働のあり方について、私たちの提案を伝えたが、図書館側からは、市民協働のプロジェクト等についてのいろいろな提案は参考になった、運営のあり方については、市民からの一意見として受け止め、今後、ほかの市民団体からも意見を聞いて、考えていきたいという回答にとどまった。
- ・10月17日に第3回鶴川図書館応援まつりを開催。鶴川図書館の協力による鶴川図書館クイズ、おはなし会、古本市などの恒例のイベントほか、鶴川図書館・浪江慶さんの図書館・子ども文庫などをめぐった中学生の視点から撮ったショートムービーの上映、英語多読の会の出展、自費出版を応援する出版社の出展など、図書館と本につながるイベントへと広がった。これも市立の鶴川図書館が鶴川団地の広場に存在してこそ。図書館としての基本的機能なしにぎわいや交流だけができて、それは図書館とは言えない。司書がいて、なんでも尋ねられ、市内8館及び近隣自治体の図書館ともネットワークつながっているいろいろな資料を借りられる市立の鶴川図書館が核としてあってこそ、市民は市と協働して、より魅力的な図書館にすることが出来るという思いを多くの方と共有したい。
- ・2022年3月議会で審議された2022年度一般会計予算（鶴川図書館の市民協働化のための予算1,155.9万円。内、市民協働型運営団体支援業務委託料 902万円）が可決。その業者として(株)HITOTOWAに決定。

2022年度：4月、図書館は市民の宝物！－鶴川地域の図書館を考える市民シンポジウム－開催。

- ・今年度は、市立図書館としてよりよい形で鶴川図書館の存続を願う私たちにとって正念場となる。
- ・2022年4月、鶴川駅前図書館で、久美堂・ヴィアックス共同事業体が指定管理者として運営開始。市は今年度と来年度で鶴川駅前図書館の指定管理者制度の評価を行い、他の地域館にも拡大を検討の予定。今後の動向に注視するとともに、指定管理者制度の拡大されることを何とか防ぐために市民活動を継続。